安全衛生あれこれ 59

増田労働衛生コンサルタント事務所
所長　増田稔久

令和6年を振り返って
～「コミュニケーションループ」って？～

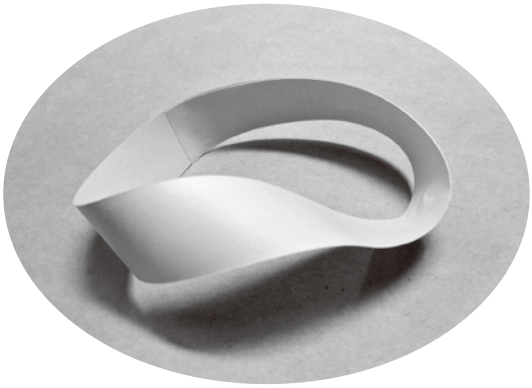
最近、「コミュニケーションループ」という言葉を知りました。「意思疎通の輪」と訳してみました。

この輪は伝達ミスを防ぐ「確認の輪」です。これが記されていたのは「羽田空港航空機衝突事故対策検討委員会　中間取りまとめ（案）」をタイトルとした運輸安全委員会の中間報告書です。本年6月に同会のホームページで公表されました。同会は1月2日に起きた衝撃的な航空機事故を契機として設けられました。

報告書ではパイロットの意見として、管制官とパイロットの間にコミュニケーションエラーが生じないように「コミュニケーションループ」が大切と記されていました。

遊びに「伝言ゲーム」があります。人から人へと言葉を伝え、正確に伝わらないことを楽しみます。しかし職場では困ります。私たちは伝達事項を復唱、ダブルチェック、書面を介する等、正確に伝えるための「ループ」に努めていますが、ミスゼロはあり得ません。報告書でも「おわりに」との項で「ヒューマンエラーは人間の特性から生じ、根絶は困難である。そのエラーが発生した場合も、それが事故につながらないようなフェールセーフに記されています。

また「滑走路誤進入事案は国内外で今なお後を絶たない」と少々飛行機の旅に不安を覚える記述もありますが、HPを検索しご覧になることをお勧めします。



さて、令和5年9月、牧之原市で通園バスに残された3歳の保育園児が、重度の熱中症で亡くなった悲しい事件がありました。今年7月その刑事裁判において静岡地裁は園長に実刑判決を下しました。報道によると裁判官は「○○ちゃんはお父さんとお母さんを不幸にするために生まれてきたのでも、教訓にするために生まれてきたのでもない」と判決理由で説諭しました。さらに「私たちは子どもの命を守る大切さを自覚しなければなりません。今回、その当たり前のことができなかった。子どもの命の大切さをふと忘れてしまったときに事件が起きるのです」と述べました。

裁判官の説諭は労働災害でも同様です。今後起こるかもしれない職場での労働災害に際して「この被災者の災害を教訓とし防止対策に取組む」と語る状況を決して作ってはいけません。一人ひとりの作業者の命の大切さを心に刻み、適切で的確、そして安全な措置を皆様と共に作り上げ、「ふと忘れることなく」維持発展して欲しいと願っています。

――来年もよろしくお願いします。

おすすめ

厚生労働省『職場のあんぜんサイト』

職場の安全を応援する情報発信サイト

■労働災害統計　■労働災害事例　■各種教材　■化学物質

※各種教材は、業種・作業別、約13言語の動画教材やリーフレット一覧があり、無料で利用できます